

任期を終えて 退任支部長からの メッセージ

支部懇談会をもって退任となった支部長が、これまでの活動を振り返り、感想をお寄せくださいました。

出会いが 「第一歩」



H30 山梨支部長 興水 進

3年前の支部役員会初参加では、先輩役員の方々や同学年役員の方々との出会いがあり、この出会いが育友会に関わる私の「第一歩」となりました。

縁あって支部長を務めさせていただくこととなり、秋の学校見学会、夏の支部懇談会・総会がメインの活動内容でした。まだまだ出席率が低い状況もあり、私の力不足を痛感する結果で申し訳なく感じています。どうか会員の皆様もまずは「第一歩」を踏み出し会員相互の親睦を深めたり、お子さんのために活動してみたいはいかがでしょうか？

最後に、これまでご協力いただいた全ての関係者の方々に感謝すると共に、育友会本部・支部の益々の繁栄を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

一言に 励まされて



H30 秋田支部長 鈴木 弥

出欠ハガキの余白に「お手数をお掛けします」。会場での「ご難儀をお掛けしております」。そして、アンケートの「役員の方のご苦勞を感じます。ありがとうございました。」の心温まる言葉。これはサポートしてくれたスタッフのお陰です。

支部懇談会当日は、高校野球県代表の金足農業の準々決勝。前日の組み合わせで、時間が重複しなく「ホッ」とした記憶が残っております。

時同じくして、山口県の2歳の男の子が行方不明になり3日後に発見されたニュースが。どれほど両親は辛かったでしょうか。

子を心配する気持ちは、いつの時代も、いくつになっても同じと支部懇談会での対話の中で感じました。そして自らの経験を踏まえ、あらゆる機会ですべて言ってきたことは、①身近な内科医と診療時間のチェック ②タクシーの電話番号の把握でした。そしたら、既に経験済のご父母も。

最後にご協力いただいたスタッフ、育友会のみなさまに感謝申し上げます。

培ってきた 歴史の重み



H30 神奈川西支部長 北 健男

私が所属する神奈川西支部は、神奈川東支部と併せての合同シブコンを生田校舎内で長年続けています。会員数は東西支部で4千名を優に超し、役員数も60名近くになる大所帯、その中で支部長職は肩の荷の重いものでしたが、役員間のコミュニケーションに重きをおいて運営してきました。終わってしまえば、先人の役員の方々が残してきたスキームを踏襲するというもので何とかやり遂げたという感じでしたが、大学の教職員の方々や育友会事務局の方々の前向きさには、感服する



↑神奈川東・西支部の役員の皆様

ものがありました。

他支部とは違い、打ち合わせも生田校舎を使うことが殆どで、日頃の真面目な学生の方々とも接することが多く、改めて専修大学の良さを肌で感じる事ができたのは貴重な経験でした。大学にもう来なくなるのかと思うと「退任」というより「卒業」のようにも感じ寂しいのですが、これからの大学と会の更なる発展をお祈りいたします。